

地域ブロック：沖縄

ルート名称：琉球歴史ロマン街道（宿道）

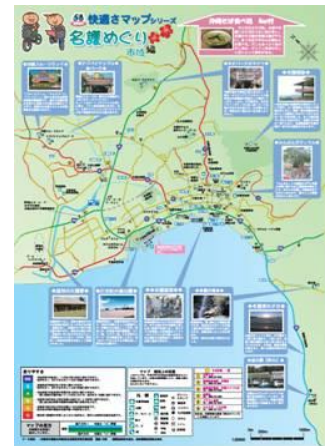
活動名称：レンタサイクルの実施による地域の活性化

1. 活動の概要

（１）活動内容

①レンタサイクルの実施

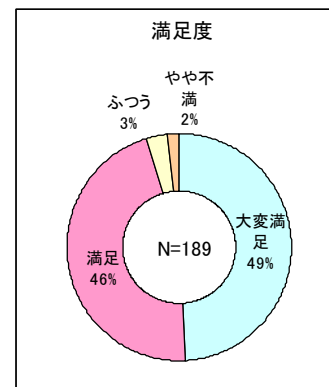
②自転車版快適さマップの作成（広域版、ローカル版を作成）



①レンタサイクルの実施（写真1） ①レンタサイクルの実施(写真2) ②自転車版快適さマップ

（２）活動による成果・効果

平成18年度より社会実験を経て、現在は名護市内を中心にレンタサイクルを実施している。観光客にとってレンタカーでは見過ごしがちであった地域の魅力を、ゆっくりと自転車で走ることにより再発見することができ、好評価を得ている。また、マップにより、土地勘のあまりない観光客のみならず、地域住民以外の県民には認知度が低い歴史的施設の紹介等も行っており文化振興及び観光振興に寄与している。



レンタサイクル利用者の満足度

（３）活動のきっかけ、目的・目標

当該地域周辺はリゾート施設のみならず沖縄の歴史的な施設も隣接している一方、レンタカーでのアクセスが困難な名所・旧跡箇所も多く観光客だけではなく、県民でも認識がないポイントがあった。そこで、隠れた名所・旧跡等観光資源を紹介し地域資源の発掘・地元文化の発信により基幹産業である観光へ寄与することで観光振興及び地域の活性化を目指した。



2. 取り組み内容

(1) 活動を行うに当たっての主な課題

① レンタサイクルの実施

- ・貸し出し料金の設定（採算性を考慮）
- ・自転車貸し出し拠点の検討
- ・自転車走行上安全な経路が確保されているか確認が必要

② 自転車版快適さマップの作成

- ・情報提供の内容

(2) 具体的取り組み内容

① レンタサイクルの実施

- ・採算性にあたっては、人件費及び自転車の管理費等の費用が必要であることが想定され
利用料金1,000円/日で、利用頻度は20台/日以上であれば採算が取れることを想定（貸し出し場所1箇所当たり）。その確認として社会実験を実施（平成18年度、平成19年度）した。
- ・貸し出し拠点については実現可能性を考慮して、利便性（アクセス性、観光施設への近接度）に優れる公共施設等を中心に適地を選定した。そのほか、貸し出しスペース・保管スペース・駐車スペース・トイレの有無も考慮した。検討の結果、条件は合うものの地域活性化への効果が低い場所や、立地条件は良いものの施設内に余剰スペースのない場所など運営面に困難のある施設を除いて下記の貸し出し場所に決定した。

【平成18年度】

貸し出し場所：恩納村4箇所（恩納村商工会、漁港、コンビニ、物産センター）

期間及び利用者：夏季 平成18年8月25日（金）～9月14日（木） 127台

秋季 平成18年11月14日（火）～12月4日（月） 120台

貸し出し料金：夏季 500円/日 秋季 200円/h（1日最大1,000円）

【平成19年度】

貸し出し場所：恩納村3箇所（恩納村博物館、コンビニ、観光施設）

名護市3箇所（ツール・ド・おきなわ協会、道の駅「許田」、交流館）

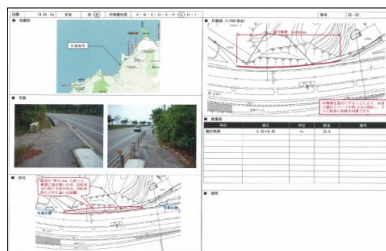
期間及び利用者：平成19年7月23日（月）～11月20日（火） 450台

貸し出し料金：スタンダードタイプ※¹ 400円/2h（1日最大1,000円）

レジャータイプ※² 600円/2h（1日最大1,500円）

※ 1 マウンテンバイク、シティサイクル等 ※ 2 スポーツバイク、クロスバイク等

- ・ なお、走行上安全な経路の確保については道路管理者とNPOの一体となった道路環境整備をおこなった。段差や勾配といったサイクリングをするうえで支障となる箇所を点検し、改善可能な箇所については道路管理者と連携して改修をすることでよりよいみち作りを実施。なお、その結果は「走行改善カルテ」を整理することでフォローアップを実施。



【対策実施状況】



対策実施



②自転車版快適さマップの作成（平成19年度、平成20年度）

レンタサイクル社会実験時のアンケートより、地域に点在する名所・旧跡は案内標識の整備が遅れており土地に不慣れな自転車利用者は目的地までの安全・快適なルートを把握することが困難であることがわかった。そのため、サイクリングをしながら南国ならではの海と景勝地、文化遺産等を両方楽しめ、かつ、安全で快適な自転車利用を援助する目的で「自転車版快適さマップ」を作成した。また、作成に当たっては各地域でボランティアガイドなどを実施しているパートナーシップと協働作成し、史跡などの地域資源情報を盛り込んだ。自転車道や自転車レーン、道路の勾配を図示することで快適コースを紹介、あわせて美ら海水族館、各リゾートビーチ、今帰仁城跡等観光拠点などの観光スポットに関する情報も掲載している。

さらに、日頃から自転車利用頻度多いツール・ド・おきなわ大会への参加者にもアンケートを実施し、道路の勾配、自転車道の有無等自転車利用に便利なルートの選定等必要な項目を抽出。また出来上がったマップを大会参加者に配布し、利便性についてアンケートを実施しすることで、さらなる利便性を追及した。



自転車版快適さマップ（ローカル版）

3. 取り組み上の反省点、活動の結果生じた課題、その対応方針等

① レンタサイクルの採算性

レンタサイクルについては、観光客及び地域外の県民にも一定の評価は受けているものの、1日あたりの利用が少なく、採算面は厳しい結果となっている（1箇所あたり20台／日の利用が必要）。これらについては、レンタサイクルの認知度調査を実施したところ、県内の方で約5割、県外の方で約7割、全体で約6割がレンタサイクルを認知していない結果を確認していることから徹底した広報等を実施することで、今後改善を図りたいと考えている。地域の通り会などとも連携し自転車や快適さマップに地域のお店・飲食店当の広告を有料で掲載するなど副次的な収入を確保することで料金収入の変動に対応できる収入システムの構築を検討し、採算性の改善を行いたい。

また、旅行代理店等への自転車で巡る観光ツアー等を売り込むことで認知度向上を図りたいと考えている。

② 貸し出し拠点

実験時においては公共施設等を中心に選定したため問題は生じなかったが、名護市～恩納村内の主要リゾートホテルに対し今後協力してもらえるか調査したところ、ポスター掲載などの協力はできるが貸し出し拠点としては全ての施設から協力を得られないとの回答となった。利便性向上を図るためにも、今後地域に働きかけを続け協力施設を増やす必要がある。

③ 自転車走行環境

自転車利用者へのアンケート調査を実施したところ全体の6割から7割の方から「走りやすい」との回答を得ている一方、個別問題点として「幅員」「段差」については効果が現れていないことが明らかになった（平成18年度10件の問題指摘に対し、平成19年度は11件の問題指摘）。これについては、主な指摘が歩道・路肩が狭いことや乗り入れ口の段差などすぐには対応できない指摘事項だったためと考えられるが、現在歩道整備等を進めており併せて指摘事項が解消できるよう対応していきたい。

4. 問い合わせ先

所属団体：沖縄総合事務局 北部国道事務所 調査課

担当者名：調査課長 川崎

電話番号：0980-52-4350

関連HP：<http://www.tour-de-okinawa.jp/sukumichi/index.html>